



ROTARIANS
UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE

ロータリアン
奉仕に結束
平和に献身



会長 吉野 勲 幹事 板垣広志 クラブ奉仕 高橋良士 職業奉仕 飯野準治 社会奉仕 佐藤元伸 国際奉仕 阿蘇司朗 青少年奉仕 菅原辰吉

出席報告：会員 80 名 出席 49 名 出席率 75.38% 前回出席率 78.13% 修正出席 55 名 確定出席率 85.94%

会長報告

吉野 勲 君

本日午前11時30分より、第4回理事会を開催いたしました。まず第1番目に、来る10月13日(火)午後1時30分より3時頃迄の予定で第2回クラブ協議会を開催いたします。各委員長さんには是非ご参加されるようお願いします。第2番目、先程ご紹介しました東北電力(株)鶴岡営業所長さんの杉澤保吉君の入会の件、全員一致で本日より正式入会となります。第3番目は、山形西R.Cより30周年記念式典のご案内が届きました。期日が10月24日(土)、オーヌマホテルにて15時登録開始でございます。それで、山形西R.Cは私共鶴岡クラブのスポンサークラブでもあり、大勢出席してお祝いを申し上げたいと思いますので、希望の方は今日中事務局まで申し込み下さい。只今6名の出席者があります。

次に、先の年次大会の礼状がまいっておりますのでご報告申し上げます。

拜啓 錦秋の候と相成りました。

この度の当地区年次大会の開催については、貴台には格段のご協力を賜り、お陰様でご好評の中に幕を閉じる事ができました。ここに寄せられた貴台並びに幹事様そして貴クラブの皆様のご厚情、誠に有難く深く感謝申し上げます。このうちは皆様のご期待を深く胸に収め、ロータリー精神の高揚と地区の発展に微力を尽くす所存ですので、何卒変らぬご指導とご協力を重ねてお願い申し上げます。

まずは取りあえず御礼のみにて失礼いたします。会員の皆様にも宜しくご鳳声の程お願い申し上げます。 敬 具

昭和62年9月28日

国際ロータリー第253地区

ガバナー 志藤和夫

地区幹事 山田栄次

大会委員長 吉田常吉

クラブ会長各位 殿

新会員紹介

佐藤 衛 君

1. 氏 名 杉澤保吉君
 2. 生年月日 昭和7年8月26日
 3. 自宅(社宅) 鶴岡市家中新町12-10
 4. 職 業 東北電力(株)鶴岡営業所長
 5. 家族構成 妻 多喜子
子供 25才を筆頭に男子3人
 6. 略 歴 県立新庄高等学校卒業
東北電力(株)に入社、山形・鶴岡・酒田・仙台の支店・営業所・本社等の勤務を経、60年7月鶴岡営業所長となる。
 7. 趣味・特技 囲碁・短歌・園芸
- 以上、ご紹介申し上げます。

新会員挨拶

杉澤保吉君



只今ご紹介戴きました東北電力の杉澤でございます。私まだ未熟でございますけれども、過日ゲストとして当クラブに出席させていただいたことがございますが、鶴岡クラブのすばらしいのに感動され、その後山形支店長の方にクラブ入会のお願いをし、又、皆様よりも加入への進言もいただき

まして、本来なら私共の場合入会が出来なかったのですが、幸い入会することが出来ました。併せて私と新庄・天童の所長三人が県内で入会することが出来ました。入会を今日で承認いただきましてお世話になります。この地域の為に皆様と一緒に頑張っ
てゆきたいと思ひます。何分よろしくご指導お願い申し上げます。

幹事報告

幹事代理 若生恒吉君

○例会変更のお知らせ

- ・酒田東R.C 6日(火)を1000回例会のため
日 時 10月8日(木)
場 所 酒田産業会館4階
登録料 3,000円
- ・酒田R.C ファイヤーサイド・ミーティングのため
日 時 10月14日(水)
場 所 ホテル リッチ酒田
登録料 3,000円

- 第2回クラブ協議会の出欠を今日中に提出のこと。
- 山形西R.C30周年記念式典の案内…回覧中
- ロータリー米山記念奨学会より報告書等到着
- 鹿児島西R.C会報到着…回覧中
- I.G.F出席者は今日例会後会議を開きますのでおのこり下さい。
- 先の年次大会で石川寿男君が、10年皆出席表彰を受けられたので伝達します。

委員会報告

親睦活動委員会

丹下誠四郎君

○10月会員誕生

風間真一君・石川寿男君
山口篤之助君・塚原初男君
斎藤隆君・秋野忠君
佐藤元伸君・石井敬三君

○10月奥様誕生

加藤典子様・鈴木須美子様
矢部洋子様・手塚久子様
平出幸代様・佐藤康江様
石井博子様・玉城常盤様
斎藤津弥子様・塚原玲子様

佐古田智子様・内山キミ様
佐藤登久子様

- ご案内の10月15日(木)の親睦ゴルフ大会に多数のご参加下さいますように。

スマイル

- 三井賢二君 3番目の娘が、世界で一番早く夜明けを迎える国ニュージーランドに結婚のため9月30日旅立ちしましたが、昨夕現地より無事到着の電話を受け、先づは一安心したところです。
- 早坂徳治君 10月2日おかげ様で本店店舗の新築落成をみました。今後共よろしくお祈りします。
- 吉野勲君 さる日曜日、鶴岡幼稚園での孫の運動会で親子四代競走にでました。参加組は2組でした。
- 若生恒吉君 就任3ヶ月目で今日代行をやらせていただきました。
- 丹下誠四郎君 沢山のスマイル有難うございました。

出席委員会

佐々木詰彦君

- 年間皆出席者 1年間皆出席 笹原信一郎君
- 9月100%出席者 27名

地区委員会

ロータリー奨学生について

新穂光一郎君

国際ロータリー財団本部より須田里恵子さんの希望するミズリー大学院に入学割り当ての案内が参っています。彼女は大学課程に編入手続きをしたのですが、大学院という事になっています。ミズリー大学のコロンビア校はジャーナリズムではアメリカで3本指に入る名門ということで、何とかがんばって入学すると燃えている様です。

605地区についての問い合わせがありましたが、この地区には45クラブあるという事と、St.Louisのクラブもあるという以外は分りません。

鶴岡東R.C創立迄の経過に関する報告

中 江 亮 君

このクラブの創立総会が9月16日に行われた時、当クラブからは会長・幹事以下約20名がお祝いに参加されたので、かなりの方がこの新しいクラブの誕生の経緯についてご存じのことと思いますが、私共の会員の中には“何だか新しいのがもう一つ出来たそうだが、何処だ?”と聞かれたり、“拡大委員会をもっと明確に経過を報告して会員の協力をお願いすべきた”とお叱りやらご指摘をいただきました。今迄数回となくこの例会でご報告申し上げて来たつもりですが、要領を尽せなかった事をお詫びします。

山口会長年度も終りに近づくこの3月に突然降って湧いて来た九里ガバナリーの要請を受けて、我々3名(中江亮・小池繁治・若生恒吉)が西クラブの同じく3名とで拡大委員会委員を委嘱されて、この事業に取り組んでこの方6ヶ月の日時を費やしましたが、鶴岡西R.Cとの共同スポンサーで数回に亘り会議を開き、我々の手で先づキーメンバー12名を見つけ出す作業から始り、その次の手法としてこの12名の方から又我々から更に1名宛を選んで、都合20数名でスタートする手筈でありましたが、時間を惜しまぬ懸命な努力と説得が効を奏して、9月16日の時点で32名の候補が入会の意志を明確にされました。新しいクラブを創るには20名が最低必要でありますので、逆に言えばもっと早くクラブが生まれたのであります。功を急ぐより後顧の憂なからしめんと、30名のラインを引いた訳であります。

幸いにして職業分類もバラエティーに富み、榎本孝会長の高潔なお人柄と会員の方々も私共の接した限りに於ては、素質の良い温和な方ばかりでありま

した。

R.Iには大川特別代表が推せん者として加盟申請の手続きをすませてありますが、多分近い中に認証されると確信しております。それ迄はこの32名以外に募集はしてはいけないルールになっていますが、認証後はこの規制がとれるので、4月花咲く頃に予定して居ります認証状伝達式(Charter night)迄には45名迄増強したいと張切っています。洵に頼母しい限りであり、敬服にたえません。どうぞ皆さんに於かれても出来るだけmake upをされて、先輩としてご助言していただけたらきっと喜ばれると思います。しかし乍ら9月29日を以て我々拡大委員会はその任務を達成したものと考えて解散する運びとなりました。今後は教育総監とも云う特別代表の大川俊一さんが1年間面倒を見る事になりますので、その旨お含みの上ご協力申し上げる様お願い致します。

最後になりましたが、我々3人の委員がクラブ理事会から付託されたこの任務を何の損色もなく果すことが出来たのは前・現会長・幹事さんの強い意気込みによる適正なご指導と、会員の皆さんのお力添えの賜と心から感謝を申し上げます。特に手塚拓さん、鈴木肇さん、佐藤順治さん、佐藤昇さん、小松広穂さんには私たちのお願いを快くご理解下さって会員候補者を推せん下さった事に対し厚くお礼を申し上げます。

以上を以て外部拡大委員会の最終報告と致します。ありがとうございました。

会員スピーチ

御 布 施 の 話

佐々木 詰彦君

最近、ある方からこんな質問をいただきました。「和尚さん、自分は今一家の主として、先祖代々の位はいを守ってきたが、自分自身が仏教徒であると

思ったことはない。仏教そのものを信じているわけでもないし、特にこのごろの寺のあり方を見ていると、その仕事は葬式と法事が主で、一番大切だとい

う精神的なつながりというものを感じられないではないか。正月とか彼岸・盆になれば人並みに墓まいりには行くが、それも本心は世間への義理と体面があるから。もちろん父母への感謝という気持ちはあるが、そこで生じる寺との交渉はむしろ『わずらわしい』。それだけの事で仏教徒とは言えないと思うし、そう考えると戒名というのをつけて葬式をするという気にはなれない。俗名のままで葬式をしてはいけないのだろうか。そこの所を教えて欲しい。」

「戒名がいらない、というのなら俗名のままで結構です。自分は仏教など信じていないというならば戒名はいりません。私の寺の檀家で、俗名のままの方が数人います。又、仏教の葬式はいやだからといって、告別式だけですませ、納骨にこられた方もいます。ただ、その時には貴方御自身はもうこの世にいないのだということを、よく承知しておいて下さい。」

その方は、私の友人であり、いわゆる檀家ではありませんが、その後時々おいでになり、何故葬式をするのか、どうして戒名をつけるのか、それに坊主がなぜかわらなければならぬのか、についてお話をしました。今はその友人は「私も戒名をつけていただけるように、これから少しずつ、つとめてみよう」といわれるようになりました。

世間一般では、戒名というと死者につけられる名前という感じと、それには一体いくらかかるのか、という事ではないでしょうか。その上更に葬式の費用が重なればと考えれば、頭も痛くなろうというものです。

俗に地獄のさたも金次第ということがいわれるようで、これではうっかり死なれない、という事になります。

戒名といい、葬式といい、すぐ金との結びつきが話題になるのは、本当は私たちにとっても困った事ではありますが、これも現実、昔と違って私達もお金をいただかなければ困ってしまいます。

しかし、根本的には戒名はお金で買うものではありません。又、昔は「葬式は皆で出してくれる。しかし法事は自分で書け」といわれていました。後生が良ければ沢山の人がかかわり合って面倒を見てくれる、だから一日一日を大事に生きなさいよという事でしょう。

そうは言っても、結極は和尚さんには御布施とい

う形のお金をさし上げる事になるわけですが、私の寺の古い記録、檀家から資料としていただいた帛帳に、こんな記録が残っています。

寺は農村にありますので、そのほとんどが農家であり、毎年決められた仏供米が納められていました。その他に、葬式・御法事の御布施もお米で支払われていました。

ある檀家の記録には、和尚様への謝礼として、米俵一俵に緋毛せんをかけ和尚はそれに腰をかけて引導を渡したとあり、別の代々役員を勤めた檀家の記録には、米俵三俵を積んだと記されています。昔は五斗俵ですから、一俵約二万五〜六千円くらいになりましょうか。三俵ならばおよそ十万円、当時も相当に高額ではあったようです。

これは、私の師僧から聞いた話ですが、自分が小僧の時代には、法事のお布施は、その時の職人の手間の三倍といったものだったということで、小僧はその約三分の一、和尚に命ぜられて読経にいった時には十分の四をもらったとっておりました。

現在職人の手間は、大工さんで約一万円くらいでしょうか、その三倍という金額はちょうど今たちがいただく金額にやや合っているといえます。

もっともこの金額は標準的なもので、都市と農村、地域的な要素、その他いろいろな要素が加わりますから、確定的なものとは言われません。

戒名料については、先にも申し上げたように、本来売り買いするものではありません。戒名というのは「戒律を守って仏教徒となった人」につけられる名前、死者に与えられるものでなく、生きている内につけられるのが本当です。私は修業にいく時にその間の費用にあてるために打飯米（たはんまい）という名の米を持参しました。その量は二俵半・一石となっていました。これが形を変えた戒名代にあたります。ですからこれは支払うという性質のものでなく、その間にかかる当然の代償ということになります。

私は、「和尚さん、お布施はどうやって決めるのだ」と聞かれた時には、こんなお話を申し上げることにしています。

ビ ジ タ ー

鶴岡西R.C 中村 紘君